

# 国の支援事業などを活用し防災対策のさらなる推進を

公明党 松澤 堅一

**問** 国土交通省は、公園の防災機能向上を図るため、都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業を創設し、自治体に財政面の支援をしている。本市は、防災機能を持つ公園が少ないが、この事業を活用し、整備を進めたいか。事業の中には、老朽化した遊具や施設への支援もあり、活用すべきと思うがどうか。また、被災者支援システムのCD、

ROMが、総務省から配付されたと聞いた。総務省では積極的に取り組んでいるようだが、このシステムを活用しないか。災害時、要援護者の避難支援にはしつかりとした体制が必要だが、対応は。

**答** 現在、防災機能を持つ公園は4公園だが、今後、公園整備の際には、国の事業の活用を含めて、関連部署と連携を図りながら取り組む。遊具などは、現在、市費で交換しているが、平成21年度からは、この事業の活用を図っていく。また、被災者支援システムは、被災者台帳や避難所、緊急物資などの管理システムで、効率的な活用が可能か精査している状況である。要援護者の避難支援は、災害時要援護者マニュアルが基本だが、互助意識の醸成や要援護者の地域との交流促進などにも積極的に取り組む。

(ほかに「商店街の活性化について」「子育て支援の充実に向けて」を質問)



4月5日、「第32回城山桜まつり」が開催されました。満開の桜の中、「それいけ!アンパンマン ショー」や模擬店、フリーマーケットなど、多くの人でにぎわいました

# 寺尾上土棚線の迷惑駐車を一扫しさらなる交通安全を

山田 晴義

**問** 寺尾上土棚線は、本市の南北をつなぐ重要な幹線道路である。4車線供用開始から1年が経過し、交通量も増加している。しかし、朝や昼には大型車両が路上駐車しており、交通安全上、非常に危険な状況である。市民からも迷惑駐停車の一扫について多くの要望が寄せられているが、どのような対策を講じているのか。交通安全は、市民の命

や暮らし、幸せに直結する問題であり、効果のある対策をいち早く実施することが重要である。自転車・歩行者の交通マナー向上や高齢者の運転免許証自主返納支援への対策は。また、なぜ信号機の設置は時間を要するのか。

**答** 寺尾上土棚線では、交通指導車でのパトロールや駐車禁止などの看板設置をしている。パトカーでの車両排除もしており、今後も警察と連携していく。交通マナー向上のため、幼児から高齢者まで段階的な交通安全教室や、普及啓発活動を実施している。今後も大和署と連携した指導啓発などの安全教育を進める。免許証自主返納支援策は、県や他市の動向を参考に、関係各課と連携して検討する。信号機設置は、大和署に要望書を提出後、協議を経て、県警本部に上申される。最終判断は県公安委員会であるが、多数の要望があり、設置までの期間が長くなっている。

# 東名綾瀬インターチェンジの進ちよくと今後の対策は

佐竹 百里

**問** 本市はこれまでインターチェンジの事業化に力を入れてきたが、市民を巻き込んだ議論が不足しており、市民が判断する情報が足りないという評価につながってきた。そこで、事業化に向けた県の平成21年度予算と事業の流れはどうなっているか。交通需要推計が見直されたが数値の

見直しや影響はこの事業で、寺尾上土棚線の北伸はどうなるか。また、市道の整備が必要と思うが、どのように税金が投入されるのか。人口減少などで価値観なども変わるなか、多額な社会基盤整備に対する市民の不安解消と、合意形成をどう考えるか。

**答** 県は引き続き、環境影響予測評価書を作成する。今後は、説明会などで意見を聴

# 子どもたちに電磁波による携帯電話の危険性の啓発を

渡部 市代

**問** 児童・生徒の携帯電話所有率は高く、「食事や入浴などの基本的な生活時間」の中にも利用していることが報告されている。携帯電話は頭部に接触させて使用するので、発達中の脳への危険性を考慮しなければならぬ。世界保健機関の提言などから、EU(欧州連合)では積極的な安

全規制がとられているが、日本の基準は低く対策が遅れている。電磁波の影響を受けやすい遺伝子があると、腫瘍や神経変性などにつながる可能性がある。電磁波に対する子どもへの啓発が必要と考えるが、また、教員を対象とした学習会を提案したい。

**答** 携帯電話が発する電磁波の人体への影響は、さまざまな機関で研究され、健康へ

の影響を示唆する報告もあることは承知している。しかし、電波を管理する総務省では、現時点で携帯電話の電磁波は人体に影響を及ぼさない、過去に影響があると報告された研究成果も、手法を改善した実験を行い、いずれも影響がないとする報告書を平成19年に公表している。また、今後も安全性評価に関する調査研究を進めることが重要としているので、現時点では啓発には取り組まないが、研究結果を注視しながら情報を収集し、子どもの健康を守っていく。

(ほかに「支援教育について」を質問)

